



ブラバス製ワイドボディキットでインパクトは申し分なし。さらに低いスタイルングが好みとのこと。ファーストオリジナルのダウンスプリングによって60mm落とした。リアウイングはブラバス・ロケットエディションをモチーフに翼端板をレッドでペイント。フロントフェンダーのアクセントなども同様のアレンジだ。



TECHNO GARAGE
Mercedes-AMG G63(2020)

「全国各地方からオーダーが届きますので、販売する車両は車検にクリアすることが絶対条件です。どの車両もさまざまなカスタマイズを施していますが、ディーラーにも安心して入庫ができ、高い安全性を実現しているパーツだけを厳選しています。その意味では、ワークのホイールほどのサイズであっても安心です。グノシスのように2ヒースモデルであればmm単位のインセット指定ができますので、車高ことに攻めたツライチを実現することも可能です」と村田代表。今回はワイドボディキットを装着したG63ということで、クリンながら力感あふれるGSR1を選び、カラーもボディにあわせてブラック/アウトサイドポリッシュブラックアルマイトリムとした。もちろん、これだけクリンなデザインなので、振り切ったワイドボディではなく、ノーマルの350dに装着して、サラッとスポーティーを楽しむことも可能。そういうときにも、カラーやサイズの選択肢が多いグノシスは頼もしい。

欧州車向けモデル充実ブランドの最新モデルをインストール。

国産ホイールメーカーのなかでも、指折りの実績を誇るワークがプロデュースするグノシス。国内メーカーとしていち早く欧州車に注目し、BMWやアウディ、とりわけメルセデスに対応するホイールを発表し続けてきたブランドだ。

その歴史はゆうに10年を越え、これまでさまざまなデザインのホイールを提案してきた。そんなグノシスが新たに発表したのが、こちらのGSR1。なかには見覚えのある方もいると思うが、こちらは1stモデル「GS1」を現代にあわせて再構築したモデルである。シンプルで力強い10スポークデザインは普遍的な魅力を備えるが、さすがに10年以上前の設計であるため、現行モデルに装着するのが難しくなってきた。そこでホイールの本質を守ったまま、現行モデルに適合（とりわけキャリパーサイズ）するGSR1へとアップデートを敢行。第一印象はベースデザインから離れないような気を配っているが、随所に立体感を与えるデザインを盛り込み、オールニューデザインのGSR1へとブラッシュアップに成功。キープコンセプトのまま設計を一新したという意味では、Gクラスに通じるものを感じる。そんなグノシスGSR1を装着するのは、テクノガレージ（岐阜県）のデモカーであるAMG G63。ご覧のとおり、ブラバス製ワイドボディキットを装着した迫力の一台だ。主にメルセデスのコンプリートカー販売を行う同店には、大切にしているポリ

GNOSIS

GSR1

妥協なき進化をワイドGの足元に。

グノシスの初代モデルであるGS1を、現代の解釈でアップデートしたのが、GSR1。その成り立ちは、キープコンセプトのまま現代の技術で全面刷新したGクラスとどこか似ている。岐阜テクノガレージがブラバスワイド仕様のG63にインストール。



ボディカラーにあわせてブラック/アウトサイドポリッシュブラックアルマイトリムを選択。サイズは前後ともに22×10.5+20とし、+25mmスペーサーを装着している。このサイズ設定であればワイドボディキットだけでなく、幅広くGクラスにセットすることが可能とのこと。



ブラバス製ワイドボディキットが、オリジナルでも迫力十分なG63にさらなるインパクトをもたらす。ブラバス・ロケットエディションをモチーフに赤の差し色を加えている。



カーボン製のエアロネットも装着。さらにヘッドライト枠はロシアのトップカーメーカーを装着してパッドフェイス風にアレンジ。グリルのエンブレムにも個性を入れた。

PRICE LIST	
20×8.0~12.5	9万4600~13万9700円
21×8.5~12.5	11万3300~16万6100円
22×8.5~11.5	14万800~19万4700円